

令和8年度 佐賀市立大詫間小学校 教育課程

1 学校教育目標

自ら学ぶ学校、地域を愛する学校

2 本年度の重点目標

(1)「確かな学力の向上」を図る。(2)「思いやりと感謝の心」を育てる。(3)「特別支援教育の充実」を図る。(4)「郷土愛の育成」を図る。

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実

「個に応じた確かな学力の育成」を図る。…少人数を生かしたきめ細かな指導の徹底。
①一人一台端末のアイテムとしての活用とICT活用指導力の向上による教育の充実を図る。
②つまづきを見逃さず、即時支援を行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
③他者と対話しながら、友達等の考えも尊重して自分の考えを磨き上げたり、相手意識を明確にもった表現の仕方を身に付けさせる。
④めあて・まとめ・振り返りを確実に実施し、校内研究では特に児童が自ら追及したい「問い」をもって授業に臨むような授業づくりの研究を推進する。
⑤家庭学習の継続・徹底による基本的学習習慣の確立を行う。
(学年発達段階に応じた内容・指標の確立、個に応じた指導の充実)

(2)生徒指導の充実

自己肯定感を高め「思いやりと感謝の心」を育てる。
①様々な場面で意図的に児童の出番を増やし、1日に1回以上、児童をほめ、自己肯定感を高めるとともに友達のよさを感じさせる。
②WEBQUの分析結果を活用したり、毎月子ども支援会議を実践したりして、生徒指導、教育相談、特別支援の3つの視野から児童理解や学級経営を強化する。
③「こころの実」や人権集会を通して、人権・同和教育の推進を図る。
④不登校及びその傾向のある児童について、関係職員が適宜連絡を取り合い、情報共有を図るなど、職員間で連携を図って対応に当たる。また、SCやサポート相談員と連携し、必要に応じてケース会議を設定したり、保護者との連携を図ったりする。

(3)特別支援教育の充実

「特別支援教育の充実」を図る。
①特別支援教育コーディネーターを中心に全校児童の実態把握に努め、支援を要する児童の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成して指導の個別化を図ったり、児童の実態に応じた自立活動を展開したりする。
②困り感のある児童や気になる児童については、毎月子ども支援全体会議で情報交換したり、個別の支援が必要な児童について、適宜、校内支援委員会で共通理解を図ったり、全職員の共通理解のもと、適切な支援を行う。
③講師招聘の研修会を設けたり、関係機関との連携を図ったりしながら、職員の特別支援教育への理解を深める。
④学校環境のUD化を進め、合理的配慮の視点から、全ての児童に対応できる学習の場を工夫する。

(4)市民性を育む取組

地域とともに「郷土愛の育成」を図る。
①コミュニティ・スクールとして、生活科や総合的な学習の時間などの授業及び学校行事の中で、地域の「ひと・もの・こと」を生かした学習を仕組む。大詫間や川副町のよさに気付いたり、地域の人のおたたかさにふれたりする学習を通して、ふるさとを愛する児童を育成する。
(6月:田植え、10月:稲刈り、11月:芋掘り、11月:手漉き海苔体験、グラウンドゴルフ大会、1月:駅伝大会、2月:トマト収穫、豆腐作り体験 他)
②ふるさと学習支援事業を活用し、佐賀市の自然や文化、歴史等について学び、その良さに気づき、「市民性を育む教育」を推進する。